

2024年7月28日(日) 礼拝メッセージアウトライン 「困ったちゃんから神の器へ」

聖書箇所：使徒の働き 22章 3～21節

タイトル：「困ったちゃんから神の器へ」

はじめに

本日の聖書箇所から、ユダヤ人として律法に忠実に生きてきたパウロ、復活のイエス・キリストに出会う前のパウロ、復活のイエス・キリストに出会った後のパウロの生き方を通して神は私たち人間をどのように造り変えてくださるのか、どのような器を用いてくださるのか、神の恵みの深さを学ばせていただこう。

1. 時代背景

- ①ローマ帝国の圧政下にありながらも、ユダヤ人は神の選びの民であるという自負を持っていた
- ②救い主の到来を待ち望んでいた彼らのメシア像は、ローマの圧政から解放してくれる政治的解放者であった。
- ③貧しい人々、見捨てられた人々にとってイエスのみわざは神のみが成すことのできるわざと受け入れられた。しかし、支配階級や宗教界のリーダー的存在だった人々にとってイエスは、自分たちが謳歌している特権と地位を揺るがしかねない危険な存在だったのだ。
- ④パウロという人物がこの時代、パリサイ派のエリートとして歩んでいた道を捨てて、キリスト者として生きる者に造り替えられていったプロセスを学び、あらためて、現代を生きるクリスチャンに与えられている使命を考えてみる。

2. パウロ自身が語る自らの人生の変化

- ①パウロの生い立ち（使徒 22：3～21）
 - * キリキアのタルソで生まれたユダヤ人。（22：3）生まれながらのローマ市民（22：25～29）
 - * エルサレムで、有名なラビであるガマリエルの下で、先祖の律法について厳しい教育を受けたパリサイ主義者（宗教的エリート）（22：3）
 - * 神に対して熱心な者、すなわちイエス・キリストを救い主として信じ受け容れた者たちを迫害し（それが神に忠実な生き方だと信じていたから）、男女を問わず、この道の者（クリスチャン）を縛って牢に入れ。殺してしまうほどだった。（22：4）
- ②ダマスコ途上での復活のイエス・キリストとの出会い（22：6～11）
 - * キリスト者を迫害するためダマスコに向かう途中の出来事
 - 天からのまばゆい光に照らされ、地に倒れたパウロにだけ聞こえた声「サウロ、サウロ、どうしてわたしを迫害するのか。」（22：6～7）
 - * 主とパウロとのやりとり

パウロ「主よ、あなたはどなたですか。」

イエス「わたしはあなたが迫害しているナザレのイエスである。」

パウロ「主よ、私はどうしたらよいのでしょうか。」

イエス「起き上がって、ダマスコに行きなさい。あなたが行うように定められているすべてのことが、そこであなたに告げられる。」

*目が見えなくなったパウロは、同行の人たちに手を引かれダマスコへ

③アナニアとの出会い（22：12～16）

アナニア「兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい。」

アナニアは目が見えるようになったサウロに神の命令を伝えた。

④主からの命令

「行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす。」とお命じになった。

3. 人間が人間を評価する基準と神が人間を評価される基準

①イエス様に出会うまでのパウロに対する評価

*人間からの評価

この世での才能にも恵まれ、ローマの市民権を持ち、高名なラビ、ガマリエルの下で学んだ秀才。律法に精通し、自らも律法に従い、さらにはナザレ出身のイエスというメシアを名乗る男とその信者たちを神を冒瀆する輩として迫害し殺すほど、イスラエルの神に忠実に従っているつもりの人であった。信仰の人、優秀な人との評価。

*神からの評価

メシアであるイエス様とイエス様を神の約束の救い主と信じる人々を迫害する、霊の目の開かれていない困ったちゃん。

②イエス様に出会ってからのパウロに対する評価

*人間からの評価

ユダヤ人の中でのパウロの評価は最優秀から最下位に転落。

*神からの評価

困ったちゃんから神の器に。神からの使命を全うした人として、神からの最高の榮譽を受ける者に変えられた。

4. 結論

①人間からの評価ではなく、神からの評価をいただける器として造り替えていただく

Ⅱテモテ4：7，8で、パウロは、テモテに、自らの死を前にして、はっきりと神が与えてくださる義の栄冠の希望を語っている。神の恵み、ここに極まれり。

②新しいいのちに生きる者に与えられる恵み

古い自分に死んだ時から、以前の能力も主がきよめて主のご栄光のために用いてくださる。「よくやった。良い忠実なしもべだ」（マタイ25：21）という主の喜びの声をいただける道である。これも神からの一方的恵みによるものである。

心新たに、この一週間もキリストのいのちを生きる日々とさせていただこう！